

分類	主な意見の概要	事業者の見解
事業計画 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> 大量降雨時には濁水処理の措置は全く効果がなく、沖縄県の降雨特性からみて海への流出は今と同じというのが現実の姿と考えられるので、このことを認める記載が必要です。 台風や集中豪雨時の赤土流出についてどのように防止するのか、その効果について記述するべきである。 調整池の浸透能力・貯留能力を超える場合の状況、濁水処理機による処理能力の妥当性について記述がない。雨水をためる浸透ゾーンを作るとしているが、これは想定を超えた豪雨時に機能するとは考えられない。これをアセスに入れることについては、前もって真に効果的かどうかの科学的検証がなされるべきではないか。 	<p>工事期間から予測される降雨量は10年確率とし、これを超える降雨に対しては調整池(浸透ゾーン)の有効容量と空港建設地内にポケットを確保することで考慮しています。沖縄県赤土等流出防止条例施行規則では、工事中の確率降雨強度を2年以上としていること、本事業においては、土工事の期間が7年であることを考慮して、10年確率降雨強度(259mm/日)を採用し、浸透ゾーン等の排水施設及び濁水処理施設の規模を決定しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 計画地を排水路で囲う意義は東側海域への濁水の直接流出を防ぐことと思われるが、その機能を記載するべき。 周辺から事業区域内へ流入してくる濁水の処理も含め、気象・地質等の状況等を考慮にいたした詳細な計画を明らかにすべきである。 周辺農地などからの赤土の流れが空港建設によりどのように影響を受けるかなどの複合的な影響についても評価・検討が必要。 赤土(汚泥)の流出防止対策において、工事中または工事後における表流水の海域への防止が海域の環境を大きく左右する筈で、準備書ではそのことには殆ど触れていない。早急にその保全対策を十分に考える必要がある。 	<p>空港用地外で発生する表流水は、工事区域内に導入させないよう分離します。そのため、工事区域の外周に仮設排水路を設置して現況の水路へ導くことにより、現況の水の流れを変えないよう環境に配慮しています。さらに、分割した施工エリア内にて発生する濁水を適切に処理することにより海域への影響は軽減できるものと考えています(p6-1-9~11)。</p> <p>なお、これらの対策を基にした水質予測は、事業による寄与分について検討しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> カラ岳の切削について、濁水発生防止を含めた工法、切削面の保全や緑化をどのように行うか明らかにしその実効性の予測を行う必要がある。 カラ岳周辺の空港本体工事以外の付帯工事に伴う赤土流出対策も、本体工事同様の重みで検討されなくてはならないが、これが検討されていない。 カラ岳の一部を削り、盛土として利用するとしているが、そこでの工法、濁水処理対策の記述がない 	<p>航空機の安全な離着陸に必要な空間を確保するため、カラ岳山腹の一部を切削する必要があります。切削に当たっては、p6-1-10に示すよう発生源対策を本体工事と同様に行い、濁水処理対策は空港本体工事と同位置の浸透ゾーンに導いて行う予定です。</p> <p>なお、切削面の保全については、環境への影響を考慮して可能な限り現地の植物を利用する緑化対策を予定しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> のり面の掘削の程度と「のり面処理方法」は重要な評価対象項目である。しかし、その対象斜面の勾配や使用植物、具体的手順などの詳細は示されていない。 	<p>のり面勾配は、設計段階で土質の性状を考慮して、安定勾配を確保する予定です。また、切土及び盛土ののり面緑化に使用する植栽については、環境への影響を考慮して可能な限り現地の植物を利用する緑化対策を予定しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 破壊してしまった表土に対して、広大な面積に降る雨や、乾燥した際の風で舞上がる粉じんにどう対処できるのか、一般市民にも理解でき、安心できる形で説明することが義務ではないか。 	<p>工事の実施による粉じん等の影響は、降下ばいじんに係る参考値(10.0t/km²/月以下であること)以下となるものと予測していますが、さらなる低減措置として、散水・土工部法面への種子吹付・裸地部分の速やかな転圧などの環境保全措置を講ずることとしています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 排水計画について「工事中の雨水」とあるが、地面のなんらかの物質(土壌など)と一緒に流れるため「工事中の濁水」に表現を変えるべきである。 	<p>p6-1-9にあります「工事中の雨水」については、降雨による水の流れ方を検討対象としています。広義の意味で「工事中の雨水」と表現しましたが、「雨水排水」等よい表現があれば今後検討します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 盛土を計画しているが、「どこどこから何トン、あるいは何m³切り出す」というふうに具体的に明記すべき。 	<p>盛土材は、事業実施区域内の切土区域から約639万m³、カラ岳の切削箇所から約26万m³で合計約665万m³を想定しています。</p> <p>なお、切・盛土のバランスがあるため他地区からの利用は考えておりません。</p>